ぼくとバスケ

W校　一年三くみ

なすあいき

ぼくはきょ年の十一月からバスケをならっている。

ぼくがキンダーに入ったとき、ルールもちゃんとしっていて、ドリブル、パス、シュートも上手な男の子たちがバスケをしていた。ぼくもいっしょにしたかったけど、できなくて「あいきたといった。ぼくにもバスケをあきらめないで、とパパはシュートれんしゅうのためのリングをドライブウェイにおいてくれ、ぼくにクラスも見つけてくれた。

一回目のクラスでぼくはドリブルをぜんぜんできなかったけど、パパがいっしょにれんしゅうしてくれて、二回目のクラスではちゃんとできた。心の中でぼくははバスケぜんぜんしらないとなかまに入れてもらえなかった。おこるきもちとやなきもちとさみしいきもちでぼくはいっぱいになった。もう、バスケはしたくないと思った。

ある日ぼくがパパにその話をすると、パパは小さいころクリケットができなくていやな思いをしたけど、あきらめずにれんしゅうしてもうまくなった。

「イェーイ」とさけんだ。

でも、がんばってもぼくはパスをなげられなかった。とるのも、あたるかもと心ぱいでよこをむくからだめ。シュートはまい日何回れんしゅうしても入らなかった。

一月。二月。三月。ぼくは少しずつパスがなげられるようになった。そして五月、はじめてなげたボールがうちのリングに入った。

「入ったぁ。」シュートが入れられてクールだと思った。六月、ついにクラスでハフトのシュートせいこう。「ワォー。」ぼくはそのときバスケが大すきになった。

夏にぼくはパスがとれた。今ぼくは心の中で「がんばれ」とはたをふりながら、まい日十フィートのリングでれんしゅうだ。今日は二十四回。明日は何回入る？

12×12

たいけんにゅう学

W校一ねん三くみ

ラグレン　まや

なつやすみに、にほんのおばあちゃんのいえにいきました。そのとき、みぎもみしょう学校に、たいけんにゅう学にいきました。おがあさんが、子どものときにいった学校です。

一ねん一くみのいとうせんせいのクラスになりまし

12×12

た。いくまえは、はんぶんたのしみで、はんぶんしんぱいでした。にほんの学校がすきか、わからなっかたからです。まえの日、おばあちゃんといっせんせいにあいにいきました。やさしいせんせいでクラスのみんなにあうのがたのしみになりました。

はじめてクラスにいった日だれそしらないのできた

12×12

ちょっとしんぱいになりました。みんなのまえでなまえをいいました。そのつぎにたいくがんで、学校せいいんのまえでマイクをうかっこなまえをいいました。たくさんの人が見こいたのでドキドキしました。

一ねん一くみのおともだちは、やさしくてすぐになかよくなれました。わからないことをなんでもおしえ

12×12

てくれました。

　にほんの学校は、アメリカの学校とちがうことがたくさんあります。あさは子どもたちだけあつまって、みんながきたらねつにならんで学校にいきます。学校についたら、うわばきにかえてクラスにいきます。ランチはきゅうしょくです。たべおわったらはをみがきます。そのあとあかいぼう

しょうらいのゆめ

W校　一年四組

　ながお　みゆ

　わたしのしょうらいのゆめは、キャビンアテンダントになることです。なぜなら、おきなわにいくひこうきの中で、きもちがわるくなったときに、キャビンアテンダントのおねえさんが、こえをかけてくれたり、水をもってきてくれたり、や

しをかぶっておそうじをします。トイレのおそうじをする子もいます。たいいくの日は、たいそうぎをきてたいそうをします。いちばんたのしかったのはプールです。水の中でおよげるからです。

　アメリカの学校よりにほんの学校がもっとすきになりました。またいきたいです。

さしくしてくれたことがうれしかったからです。わたしも、キャビンアテンダントのおねえさんのような、やさしくて人のやくに立つしごとがしたいです。

　あと、日本ごとえいごのほうそうをじょうずにしていたので、わたしも日本ごとえいごのりょうほうをはなせるようになって、ことばがわからなくてこまって

いる人をたすけたいです。

あと、虫や、花や、わたしが生まれるまえのことや、きょうりゅうのじだいのことなど、いろいろなことをしっているキャビンアテンダントになって、ひこうきでたいくつしている子どもたちに、おもしろいはなしをしてあげたいです。

わたしは、たくさんおべんきょうをして、すてきな

12×12

かぞくりょこう

Wこう一ねん四くみ

こすぎさえ

三れんきゅうのおやすみにかぞくでキャンプにいきました。ばしょはキャッツキルマウンテンのフロストバレーYMCAで、くるまで二じかんいじょうかかりました。

よるにそとのたき火でスモワーズをしました。まず

12×12

キャビンアテンダントになりたいです。

12×12

木のぼうを火でしょうどくしてこがします。そこへマシュマロをさして火にあててとかします。やわらかくなったらおとなにクラッカーをもらってチョコチップといっしょにはさんでたべます。たまにこげてまっくろになりました。あまくておいしくて五こもたべました。かいちゅうでんとうでてらさないとなにも見えま

12×12

せん。キャンプのきぶんが出てつくるのもたべるのもたのしかったです。

ひろまはハイキングをしました。さいしょはかんたんなみちですがだんだんけわしくなりました。と中小さな川を見つけて下りていきました。水をさわったらすごくつめたく、手をすぐ水から出しました。きれいでした。おにいさんが、水

12×12

またふゆにもスキーキャンプにいくので、うれしいです。いまからたのしみです。

12×12

中カメラをつかって川の中のしゃしんやどうがをとりました。見てみたら水がとうめいにうつっていました。みちはおちばがたくさんあってあるくたびにシャキシャキとなりました。休けいのとき チョコをたべてげんきになりました。

みずうみの水がすごくへっていました。ボートにのれなくてざんねんでした。

12×12

ナイアガラフォールズ

W校一年五組

にしまきはるき

七月のお休みに、かぞくでナイアガラにいきました。パパがナイアガラにいくといったとき、とてもうれしかったです。なぜかというと、ほんもののたきを見たことがなかったからです。

トロントからアムトラックでナイアガラえきについ

12×12

て、タクシーにのりました。ホテルにむかうとき、アメリカだきが見えました。そのとき、すごく大きいとおもいました。もっと見たくなりました。ホテルのへやに入ると、たきがとてもよく見えるおへやで、アメリカだきとカナダだきのぜんたいが見えました。カナダだきのほうが、もっとすごかったです。ホテルににも

がったです。

そのあと、たきのうらがわのトンネルにいきました。たきのうらは、まっしろでした。そこから、てんぼうだいにいきました。そうしたら、いっぱい水がかかりました。空は青でピカピカのお天気で、くもはちょっとありましたが、きれいなにじが見えました。

よるホテルにかえってき

つをおいて、ちかくまで見にいったら、もっともっとすごかったです。大きくて、水がドォーッとなっていて、下にすごい早さでおっこちているのが見えました。

つぎに、レインコートをきて、フェリーにのりました。フェリーの上は、かぜと水が雨みたいにふってきて、大すきなヤンキースのぼうしがとびそうで、こわ

て、まどからそとを見たら、たきがイルミネーションしていて、花火がバンバンと空に上がっています。

「すごいきれい！」

といって、しゃしんと、ビデオをたくさんとりました。

かえりは、アムトラックで九じかんかけてかえってきました。ぼくは、つかれてねてしまい、きがついたらえきにいました。

「ベルリンフィルの春」

L工校　二年一組

さる見由　美汐

九月五日の日曜日に、家ぞくとーしょにカーネギーホールでサイモン・ラトルがしきするベルリンフィルオーケストラを聞きに行きました。コンサートには今年の夏スイスで行ってから、もうまるニか月も行っていなかったし、ベルリンフィルはせかいで一ばんゆう名なオーケストラの一つなので、とてもワクワクしていました。プログラムはシューマンのこうきょう曲の一ばんとニばんでした。ベルリンフィルのコンサートマスターはかし本大しんさんという日本人でした。わたしは自分の国から来た人がせかいーゆう名なオーケストラのコンサートマスター

12×12

たのしいたびでした。またいつか、いきたいです。

12×12

だったので、とてもうれしくなりました。

夜八時にコンサートがはじまりました。シューマンのこうきょう曲ーばんは「春」というだい名がついています。曲を聞いている間、四月にほしゅう校の前にさいていたかさなピンクのおはなや五月のおたん生日にもらった犬の形のカーネーションのアレンジメントが頭

12×12

にうかんで来ました。バイオリンがピチカートをピアニッシモでひいていた時には春の朝つゆのことを思い出しました。バイオリンは一音一音ぴったりあっていて、まるで一人のバイオリニストが大きいバイオリンをひいているみたいでした。この曲を聞いてシューマンがどうゆう風に春を見ていたのかが分かるようでした。

12×12

おばあちゃんとのやくそくをまもることができて、心のそこからそう思いました。

二年マ笑里

「よかった。」

わたしはおばあちゃんとのやくそくをまもることができて、心のそこからそう思いました。

夏休みに一ヶ月間日本へ行きました。帰る日に近づいてきたころ、はこねへさい後のりょ行へ行きました。

12×12

ベルリンフィルのえんそうはとてもすてきでした。わたしもピアノをひく時は、聞いている人がさっ曲家がかきたかったイメージをそうぞう出来るようにひきたいと思いました。

12×12

りょ行さい後の日の朝、おばあちゃん、おかあさんとわたしの三人で朝風呂に入っていたら、おかあさんがないてしまいました。わたしはおかあさんのことがとてもしんぱいになりました。おかあさんは、おわかれが近いからさみしくてないたのだと思いました。わたしもおかあさんとはなれるとしたら、とてもかなしいと

12×12

思います。

わたしはおばあちゃんに、

「きょ年、帰る時ないてしまったの。」

と、言いました。すると、

おばあちゃんがわたしに、

「えみりたちがなくとママがつらくなるから、今どはなかないでね。」

と、言いました。わたしは心の中でなかないけっ心をしました。

ひ行じょうでおわかれの時、いもうとはないてしまいました。おかあさんも目が赤くなっていました。わたしもなきたかったけれど、おばあちゃんとのやくそくをやぶりたくなかったのでなきませんでした。

わたしは、やくそくをまもることができて、自分をほこらしく思いました。

けんかはつらい

4工校　二年二組

すぎはら　えりん

げんち校のカフェテリアで、わたしがお昼ごはんをたべおえて、ゴミをすてようとしたら友だちのヤシニアが、わたしのおしりをたたきました。またヤシニアがたたこうとしたのでわたしはにげました。ヤシニアがおいかけたのを先生に見つかっておこられました。

みんなはヤシニアのみかたをしました。先生はなしったわけを聞いてくれませんでした。どうしてかなと思いました。わたしはおこられてくやしかったです。

先生におこられた後、しんこきゅうをしました。それからあそぶために外に出ました。

外ですわっていたらわた

自てん車にのれた

W校　二年一組

水村　ひなの

わたしが自てん車にのりたいりゆうは、のれたらたのしいだろうなと思うからです。れんしゅうをはじめてから、わたしはすぐほじょりんなしでこげませんでした。わたしは、ちょっぴりかなしかったけど自てん車が大すきです。

12×12

わたしが四才のとき、ボストンでピンクとむらさき色の自てん車を買ってもらいました。わたしのすきな色だったのでうれしかったです。おとうさんと、自てん車をこぐれんしゅうがはじまりました。ほじょりんがあってもがたがたみちをこいでいたのでこわないか心ぱいでした。まわりのお友だちがどんどんほじょしている間はつらかったです。

12×12

しの友だちのレイチェルがわたしに話しかけました。

ヤシニアが、

「えりんにわたして」。

とレイチェルに紙をわたしました。その紙には、

『ごめんなさい。ゆるしてください』。

と書いてありました。それでわたしはゆるしました。なかなおりができて本とうによかったです。けんかを

12×12

りんなしでこげるようになりました。わたしのほうが大きいのに、こげないのは、はずかしくて、かなしかったです。ニューヨークにひっこしてきて、近くの学校で休の日にれんしゅうをしました。おとうさんが「ひなのは、足のカがないからいっしょうけんめいこがないとだめだよ。」と教えてくれました。そし

と思います。それは、自て人車だけでなく、べんきょうやスポーツも同じだと思います。はしって風をかんじるのと、自てん車でかんじるのはちがいます。それは、がんばった人でないとわからないことです。だからわたしは、これからもあきらめないでいろんなことにチャレンジしたいと思います。

てい七才の春にほじょりんなしでこげるようになりました。わたしはドキドキしたけど南風のような風といっしょにこいですごく気もちがよかったです。

わたしは、ほじょりんなしでこぐことをこわがっていました。でも、ゆう気を出してこいでみました。できないとあきらめていたらいつまでもできないのだ

と会のどうぶつ園

二年二組　前田　こうめ

わたしは、このあいだマンハッタンにあるセントラルパークどうぶつ園に友だちと行きました。

どうぶつ園の中には、ペンギンやあざらし、とりなどたくさんのどうぶつがいました。中でも一番かわいかったのは、レッサーパンダです。レッサーパンダ

は、ふさふさした茶色い毛でした。木のえだにつかまるようにねていました。まるで、レッサーパンダは、「お昼ね中だから、みんなしずかにしてよ。」と言っているようでした。

さらにたのしかったのは、ヤギにえさをあげるコーナーです。す手でえさをあげている時、ヤギの舌があたしの手をなめるので、くすぐったかったです。ヤギは、とてもおいしそうに食べていました。

どうぶつ園であそんだあと、レストランでおいしいお昼ごはんを食べました。とてもたのしい一日でした。

マンハッタンは、とても大きなビルがあり車もたくさんうごいていました。そんなと会のまん中にあるどうぶつ園は、いつでもあそびに行けます。だけど、どうぶつたちは、せまいおりの中で少しかわいそうに思いました。広い場所へつれて行ってあげたいと思いました。

12×12

12×12

転ぱくしたカヌー

W校 二年二組

ジョーンズ 嶺

ぼくは夏の終わりに、家ぞくといっしょにデラウェアリバーへ川下りに行きました。

ぼくたちがかっている犬のキップもいっしょです。

お母さんとお兄ちゃんは一人ずつカヤックにのって、ぼくとお父さんとキップはカヌーにのりました。ふか

12×12

みどり色の細長い力ヌーの一番前にキップが見はりみたいに立ちました。ぼくはまん中にすわって、お父さんが一番後ろでパドルをつかいました。

力ヌーのり場は、川が本当にあさかったので、お父さんが力ヌーから下りて力ヌーをおさないといけませんでした。川がら、かいとこころに出たら、家ぞくできょ

っぴっくりかえるかもしれないぞ」とわくわくしました。川のながれが速くなって、ぼくたちの力ヌーは岩にのり上げてひっくりかえりました。いきなりつめたい水の中にお、っちたので、ぼくはびっくりしました。水の中で目をあけたら、黒くて細長いウナギのようなものがおよいでいるのが見えました。ぼくの足が川の

うえをしました。お母さんは、すごいいきおいで力やクをこいだので、あっという間に遠くに行ってしまって、まめつぶぐらいの大きさにしが見えなくなりました。

と中で、大きな岩がたくさんなうんでいる場しょがありました。なみが大きくなって、力ヌーがガクンガクンとゆれました。ぼくは

そこの石をさわったので、地めんをけりました。ライフジャケットをきていたので、すぐに水のよにうかびました。

お父さんが、

「力ヌーにつかまれ」。

と言いました。ぼくたちは、きしまで力ヌーにつかまっておよぎました。キップはおよぐのがはじめてなのに、上手だなと思いました。

きしについたらパークレンジャーの人がいて、カヌーから水を出すのを手つだってくれました。その人は、「この場しょで転ぷくする人は多いんだよ。」と言いました。

ぼくは、川の中にほうり出されてドキドキしたけれども、キッパといっしょにおよげてうれしかったです。

がぜんぶ上手になるからです。

パスとドリブルは、大切なことです。なぜならパスがないと、いつがありてにボールをとられるからです。パスはすごくかくだちます。ドリブルが大切なわけは、ドリブルでかわさないと、いつまでたっても前に行けないからです。

ボールをもっていない時

ぼくのゆめ

W校

二年三組

伊とう ゆう太

ぼくのゆめは、サッカーせん手になることです。ぼくがサッカーせん手になったらFCバルセロナに入りたいです。

FCバルセロナに入りたいわけは、ドリブルと、シュートと、パスと、ボールをもっていない時のうごきのうごきも大切です。とくに、FWのうごきがすごくじょうずです。FWがチャンスがある時に行くところは、ゴールの目の前です。

FCバルセロナのせん手たちは、三人ぐらいゴールの目の前に行くから、点がきめられるのです。

FCバルセロナのせん手のすごいところは、今せつめいしたことがぜんぶできる

1

五か月ぶりにそろった家族

「工校　しょてう部二年二組

ふじ田　のぶたか

三月二十二日、ぼくの家でかっていた二ひきの犬とおわかれすることになりました。ニュージャージーのお父さんの友だちの家に、二ひきとも行くことになったのです。

黒いダックスフントのマックスは二年半、ビーグルのチャーリーも一年三か月、いっしょにくらして、ぼくは二ひきを弟みたいだと思っていたみたいで、ぼくが、

16×16

るこことです。

ぼくがFくバルセロナに入りたいりゆうは、もう一つあります。なぜならぼくがすきなプレーヤーの、ネイマールと言うせんチがりるからです。

さいごに、ぼくがどうしたらFくバルセロナに入れるか書きます。

ぼくは、いつもれんしゅうをして、上手になったら

12×12

2

「ママー」。

と、お母さんをよぶと、二ひきともっワン。ワン。」

とほえて、お母さんに知らせていました。

その日から毎日、朝おきてっああ、もうマックスもチャーリーもいないんだ。」

と気がつくと、とても悲しくなって、「まだ家にいたらいいのになあ。」

と思いました。

本だなには、チャーリーがかんだあとがあります。ごみばこを見ると、ごみをあさっておこられていたマックスを思い出します。ときどき、ぼくをかんでいたくしたチャーリー。

16×16

Fくバルセロナに入れると思います。とくに、ボールタッチと言うれんしゅうをしたら、し合でいろいろなワザを身につけることができます。Fくバルセロナに入るには、まだまだいっぱいれんしゅうをして、上手にならないと入れないと思います。

ぼくは、りっぱいれんしゅうをがんばります。

12×12

3

えさをもらうとき、くるくる回ってだっこびのマックス。

ぼくは、お父さんに、

「いつ、マックスとチャーリーに会いに行ける。」

とききました。お父さんは、

「新しいおうちの人も本当のかいぬしだと思えるようになってから。」

と答えました。そうしないと、きっとニひきは、ぼくたちがむかえに来たと思うでしょう。

そして、八月三十一日、五か月ぶりにマックスとチャーリーに会いに行きました。プリンストンまで車で二時間かかりました。ニひきは、もう一ぴきの小さな白い犬ごとといっ

16×16

4

しょに、広い庭のある大きな家に住んでいました。

家からとび出してきたマックスとチャーリーは、すぐにぼくたちのことがわかって、手や顔をペロペロなめました。新しいかい主さんと、ぼくたち家族は、犬三びきをつれてさん歩に行きました。

チャーリーは、五か月の間に大きくてしまって、よたよたと歩いていました。さいしょはおもしろかったけど、大きくとさん歩がきらいになって、早くしぬかもしれないという話も思い出して、とてもかわいそうになりました。

家にもどってから、みんなで代わ

16×16

5

る代わるだっこしたり、なでたりしてすごしました。お父さんは、耳そうじやブラシがけ、つめも切ってあげました。

ぼくたちが帰ろうとすると、マックスとチャーリーもついてきます。いつか大きな家に住めたら、またいっしょにくらしたいです。それまでは、ときどき会いに行きたいと思います。はなれていても、ぼくたちは家族です。

16×16

「カモン月食」

L工校　三年二組

加来　想一　そう

「明日の朝は月食が見られるぞ」

四月十四日の夜お父さんがぼくに言いました。ぼくは、そう聞いても月食が何のことかわかりませんでした。

「月食は月を食べる。て書くんだぞ」

と言うので、心の中でうちゅうひこうしが月まで行って、月のかけらをとって来て、それをみんなで食べるのかなと想ぞうしていました。お父さんは「月食は地球が太陽と月の間に入って地球のかげが月にかさなるから、まん月がだんだんかけて行くのが見えるんだよ。」とくわしく説明

してくれました。けれども、それを聞いてもよくわかりません。すると、ユーチューブで月食を見せてくれました。ぼくは、生まれてはじめて月食を知り、ぜっ対この目で見てみたいと強く思いました。

その日一日は月食のことで頭がいっぱいでした。月食の時間は、朝の三時五十五分から五時五十五分までで、その二時間が勝負です。その夜だれよりも早くふとんに入りました。ぼくは、楽しみなことがある時は、早くおきられるとくぎがあります。この日も二時に目がさめました。シーンとした部やでテレビを見ながら時間がくるのを待っていました。時

めないで四時半におきました。けれども、天気よほう通りで、どしゃぶりの雨でした。「ぼくは雨男なのかな」と心の中でつぶやきました。しばらくするとお父さんがおきてきて「ざんねんだけど、次は二千十五年四月四日だ。」と言いました。ぼくは、すごくざんねんだと思いお母さんにつたえると「あらそう、まだねむいからねかせて」と言いました。二どある事は三どあるのかな。いや、三ど目の正直だ。カモン月食。

になったので、外に出て見てみると、小雨がふっていたので空は何も見えませんでした。五時にお父さんがおきて、「この分だと天気が悪いから月食は見られない」と言ったけど、ぼくは五時五十五分まではあきらめないで待ちました。すごくがっかりするぼくに、お父さんは、「次は十月八日に月食が見られる予ていだから楽しみを次に待っててね。」と言いました。お母さんは、二人で朝早くおきた事をほめてくれました。

十月八日二回目の月食がやってきました。前回のことがあったので、天気よほうを見るとまた大雨のようでした。それでもぼくは、あきら

アゲハをはじめて見たとき

W校　三年　一組

岩渕　真歩

私がはじめてアゲハちょうを見た時は、十月のはじめのころでした。私とお友だちが、いつものように校庭のすずしい所でどんぐりのお店を開いていると、あざやかなオレンジと黒のアゲハちょうが、目の前を通りすぎました。

私は図かんでは見たことがあったけれど、本物を見るのははじめてでした。本物の方が、太陽の光に当って、ピカピカしていました。私と友だちは、そのアゲハちょうをみんなに見せたくなりました。

自由の女神の国へ

赤松　隆乃介

「えっ、アメリカへ行くの？」

ぼくは、最初信じられませんでした。お父さんのお仕事で、引っこしをしなければならないと聞いた時、学校の友達の顔を思い出しました。ぼくは、二年二ヵ月過ごした東京の小学校が大好きで、クラスのみんなとはなればなれにならないといけないなんて、いやだ。たからです。

でも次の日、学校で、クラスのみんなにその事を伝えたら、

「えー、いいな。」

「向こうでもがんばってね。」

「自由の女神の所じゃないの？」

と、言われました。ぼくは、そうか自由の女神を見に行けるんだと思いました。テレビや図鑑で見た本物に会えると思ったら、アメリカへ引っこす事も楽しく思えてきました。

六月二十一日、ぼくは、ついにアメリカに来ました。お母さんと弟と三人で、十三時間ひこうきに乗って、新しいお家にたどりつきました。

新しいお家には、今まで日本のお家にはなかった、広いお庭があります。そのお庭には、りすやうさぎやたまに、しかが来ます。りすは一番多く見ます。ぼくはびっくりしました。なぜなら、日本にはいなかったからです。りすは、人を見るとにげ

早く、でもにんじゃみたいにしずかにアゲハちょうの近くへ行きました。落ち葉をふむとシャカシャカなって、にげられてしまうのではないかとドキドキしました。

アゲハちょうは、せの高い花の上で休んでいました。私たちは少しアゲハにちがづきました。しかし、アゲハちょうは左右たいしょうの羽をすばやくひろげて、まっさおな大空へとんでいってしまいました。

「私もちょうちょになって、とべたらいいなあ。」

とお友だちはいいました。

「私たちがちょうちょになったら、レースしようね。」

私はうなずきました。アゲハちょうをはじめて見た私は、すごいなと思いました。

るから、かわいいです。弟といっしょに、りすの追いかけっこをして、遊んでいます。

学校は英語が分かりませんが、クラスの友達が教えてくれて、色々授業できます。全部の授業が楽しいですが、とくにぼくは、体育がすきです。サッカーやおにごっこやドッヂボールをして、遊んでいます。おどろいた事は、教室で、スナックタイムがある事です。日本にはありません。ぼくは、最初おかしを学校に持っていっていいのかなと思っていました。でもアメリカではこれがふつうです。ぼくはもうなれました。それから、アメリカの数学はかんたんです。まだかけ算をやっています。ぼくは日本の小学校で、三ケタわる二ケタのわり算まで習ったから、ほとんどのクイズで、百点が取れ、先生やクラスのお友達にすごいと言われました。ちょっとてれたけれど、うれしかったです。

昨日のコロンバスデーに家でくみんなで、自由の女神を見に行きました。フェリーに乗って、自由の女神がだんだん近づいてきた時、大きくて、金色のたいまつを持っていて、これが自由の女神かと思いました。左手に本をかかえていて、この本は自由の事が書かれているのかと思いました。アメリカは自由の国と言うけれど、本当に自由なのか、どんな自由なのか知りたいです。それにはもっと英語ができるようになって、べん強をしなければならないと思いました。

16×16

16×16

16×16

事けんい！大きなはちが教室に

W校三年三組　渡邉　慧

九月二十七日、ぼくの補習校の教室にすごく大きなはちが窓から入ってきました。最後の国語の授業中でした。みんな大さわぎで、先生が教頭先生をトランシーバーでよんで、「スタッフを二人連れてきてください」と言いました。その間、ぼくたちは、ろう下にすわりながら待っていました。みんなどきどきしていました。それは、はちにさされると思ったからです。ぼくは、はちにさされた事はないけれど、さされたらすごくいたい事は、知っています。はちは、

教室の天井の辺りを飛んでいました。待っている間、みんなはちを見ていました。ちょっと待っていると、スタッフが来ました。スタッフは、薬をばらまきました。へんなにおいでした。そうしたら、だれかが

「目がいたいよー」。

と言いました。そうしたらまただれかが、

「目がいたいよー」。

と言いました。そうしたらまた人が言いました。ぼくが思うには、薬が目に入ったからだと思います。みんな目がいたいので保けん室に行きました。ずいぶんたってから教室に入れました。はちはもういません

16×16

で、あまりさすことはない、などです。

今回の事けんは、とてもどきどきしましたが、はちについて色々な事を学ぶいいナャンスになりました。

16×16

夢がかなった夏休み

三年四組　笹尾　佳音

「ユー！」

杖選びのオリバンダーが私を指して言いました。私は、彼に選んでもらうために五回もならんだのです。

私は、この夏にフロリダのユニバーサル・スタジオのハリーポッターランドに行きました。ハリーポッターの本は、英語でも日本語でも全部読み、映画も全部見ていました。旅行に行く前の日は、そのことを考えるとうれしすぎてねむれないほどでした。

ハリーポッターランドでは、お話にとび込むローラーコースターに乗

16×16

でした。

その後、ぼくは家に帰ってどんなはちだったのか調べてみました。ぼくが思うには、クマバチだったと思います。なぜかと言うと、体が円くて、いつも見ているからです。ぼくの家には、花だんがあるので、クマバチがいつも花に集まっています。ぼくは、家を出る時や帰る時にいつも見ているので、クマバチだとすぐにわかりました。

ぼくがクマバチについて調べてみたら、色々な事が書いてありました。たとえば、クマバチは、花に集まり、かれ枝に巣を作ります。それから、クマバチはみつを取りたいだけなの

16×16

ったり、お話そのものの街を歩いたりしました。物語に出てくるお店に入ったり、バタービールという飲み物を飲んだりして、疲れを忘れるほど楽しみました。バタービールというのはもちろんお酒ではありません。キャラメル味のシュワッとしたソーダです。本物のような白いあわものっています。オープンしたばかりのダイアゴン横丁にも行きました。朝早くから並んで新しいジェットコースターに乗れた時は夢みたいでした。ドラゴンがこわくても、目を閉じないで全部覚えていようとがんばりました。ずっとずっと乗っていたいと思いました。アトラクションの建物

16×16

から出たら、列の待ち時間三百分と書いてあってびっくりしました。とくべつに早く入れることができたのでラッキーでした。

街にある何もかもが分かっている私は、何も知らないお父さんのガイドさんでした。私がハリーポッターのことが大好きなので、お母さんとお父さんがこの旅行を計画してくれたのです。

この旅行でも一番楽しみにしていたのが、オリバンダーの杖選びでした。杖はお店で誰でも買えますが、オリバンダーの杖は一本一本ちがう杖なので、選ばれた人は自分だけの杖をもらうのです。

「お願いです、私を選んでください……」

と強い思いでオリバンダーを見つめ続けました。だから、私を指した時はうれしくてうれしくて、さけび出しそうでした。オリバンダーは少し考えて、私に一本の杖を持たせました。呪文をとなえても電球がピカピカしたり、花がしおれたり失敗ばかりです。でも三番目の杖を持つと、これだという感じがしました。風が吹き抜けて温かい光に包まれました。これが私の杖になりました。お店を出てから、杖を何度も箱から開けてなでたり振ってみたりしました。私の一生の宝物です。

16×16

旅行が終わっても、ハリーポッターのクイズなどをして、いつまでも家族で楽しみました。

今年のハロウィーンは、ハリーポッターの物語に出てくる、ハーマイオニーになります。マントやマフラーを用意しました。もちろん、オリバンダーの杖もいっしょです。

私の中のハリーポッターブームはまだまだ終わりそうにありません。

エクスペクト・パトローナム!!!

16×16